

パクリラン・パダット Pakeliran Padat の再考
—ASKI の新様式が現代のワヤン・クリツ Wayang Kulit にもたらした影響—
A reconsideration of *Pakeliran Padat*:
ASKI's lasting influence on contemporary Wayang Kulit

岸 美咲(東京藝術大学、院生)
Misaki KISHI(Tokyo University of the Arts, Graduate Student)

筆者は、現在のインドネシア国立芸術大学スラカルタ校(Insitut Seni Indonesia Surakarta)の前身である ASKI (Akademi Seni Karawitan Indonesia Surakarta)における影絵芝居ワヤン Wayang Kulit の人形遣いダラン *dalang* の技術継承について研究を行ってきた。ワヤンやガムラン *gamelan* は、本来口頭伝承で伝承されてきたが、50年代以降、国による高等教育機関が整備され、多くの人々が芸術高校や芸術大学で学ぶようになった。

ガムラン専攻については、授業で楽譜を使用することが、演奏の多様性の減少に繋がると先行研究で批判されてきたが [Hastanto: 1989]、ダラン専攻の実態についての詳細な研究は例がない。

ASKI では、伝統的な様式のワヤンの他、新しい様式のワヤンがカリキュラムに組み入れられ、上演活動が盛んに行われた。新様式のワヤンはパクリラン・パダット *Pakeliran Padat* と呼ばれる。通常一晩で行われる上演を凝縮し、これまでの形式にとらわれず、より自由な音楽や人形操作を取り入れ、よりメッセージ性の高い上演を目指す。上演の進行は予め詳細に決められている。

これまでパクリラン・パダットは、ワヤンに本来あった即興性を排除したことへの批判や、当時学外のダランから、伝統的を壊しているという批判がなされ、普及には至らず、失敗に終わったと考えられてきた。 [Brinner 1992: 96-112] [Emerson 2017]

しかし、キ・プルボ・アスモロ *Ki Purbo Asmoro*、キ・マンタップ・スダルソノ *Ki Manteb Soedharsono* へのインタビューで、両者から「私の現在の上演に多大な影響を与えているのは、パクリラン・パダットである。」という回答を得た。

現在も一晩の上演が主流の中、確かにパクリラン・パダットは、ジャンルとしては主流ではない。しかし、現在のダランの実際の上演を観ると、上記のダランを筆頭に、パクリラン・パダットの要素が多用されている。そのため筆者はパクリラン・パダットの意義について再考する必要があるとみている。大学におけるダランの技術継承は、ガムラン専攻のような多様性の減少とは反対に、現代の上演の多様性を助長することに繋がったと考えられる。

【文献】

1. Brinner, Benjamin. 1992. "Performer Interaction in s New Form of Javanese Wayang." *Essays on Southeast Asian Performing Arts: Local Manifestations and Cross-cultural Implication*, ed. Kathy Foley, Berkeley: University of California. pp. 96-116.
2. Hastanto, Sri. 1989 "It's not official till the gong is hung: Dr. Sri Hastanto, S. Kar." Deveraux, Kent (ed.). *Balungan*: American Gamelan Institute. May 1989. pp.7-18.
3. Emerson, Kathryn. 2017. *Pembaharuan Wayang untuk Penonton Terkini Gaya Pakeliran Garap Semalam Sajian Daramatik Ki Purbo Asmoro 1989-2017*. Surakarta: ISI Press.

【インタビュー】

1. キ・マンタツプ・スダルソノ Ki Manteb Soedharsono (2020年12月21日)
2. キ・プルボ・アスモロ Ki Purbo Asmoro (2021年9月1日)